

- ・ヨルダン人篤志家が支援するアンマン周辺のシリア人への支援
- ・4月から支援をしてきたConcerned Individuals for Displaced Syrians (CIDS)の計画するFund Raisingイベントへの参画による間接的な支援

また、今後、アンマン市内の病院でシリア人避難民支援を行うシリア人ドクターの支援等の可能性も探っていきたいと考えています。

(3) サダーカボランティアの声～ヨルダンでのシリア人難民～ －山本 香（大阪大学）、武井 秋絵（明治学院大学）－

8月2日から二人のサダーカボランティアが難民支援および自身の研究を兼ねてヨルダンを訪れています。サダーカとしては、支援と平行してシリア人難民の方々の声を聴き、皆さんにお伝えしたいと考えており、支援団体の協力を得て家庭訪問を行う予定です。現在は家庭訪問の準備中ですが、これまでのボランティアの活動を通して、少しでもヨルダンにいるシリア人の状況を皆さんにお伝えできればと思います。

●山本香：ヨルダンに来て1週間が経ちました。これまでさまざまな人に会ってきましたが、なかなか深く話を聞くには至らず、もどかしい思いをすることも少なくありません。そんな中、8日（水）のイフタール後、数週間前シリアからヨルダンに住む姉家族のもとへ家族とともに逃れてきたAさんと、カフェでゆっくり2時間お話をすることができました。そのお話のなかで、印象的だった2つのことがあります。1つ目は、彼のシリアに対する思いです。彼にとってアンマンでの生活は、職がないことなどを除けば、概ね快適なようでした。しかし彼はどうしてもシリアに戻りたいといいます。「シリアは私の魂なんだ。それなしでは生きていけないし、息ができない」と彼は表現しました。シリアを離れることが彼にとってどれほど重い決断だったのか、この言葉に詰まっている気がしました。2つ目は、彼が「自分は大丈夫だ。ひどい思いはしたけれども、自分も家族もこうやってヨルダンに来ることができて、安全な生活を送っている。ほかのシリア人はもっと大変な思いをしている」と言っていたことです。日本にいる他のシリア人の友人も、「心配してくれるのはありがたいけど、自分は大丈夫。ほかのシリア人のほうがひどい状況にあるから」とよく言います。たとえ本人がシリア国内の戦禍を直接に受けていないとしても、親類や友人や自分の家や故郷のすべてが国内に残っている中で、気が気ではない毎日を過ごし、毎夜悪夢を見るような状況は、私にはとても耐えられないもののように思えます。彼らの心の強さ、祖国の同胞たちに対する思いやりは計り知れないものがあり、それだけにやるせない思いが込み上げてきました。今回のAさんのこのようなお話は、私にとってヨルダンで聞く初めてのシリア国内での直接体験でした。その内容はとても衝撃的で、何と答えていいのかわからず、涙をこらえるのがやっとでした。そんな自分にどんなことができるのか分かりませんが、自分なりにできることをここで探っていきたいと思います。

●武井秋絵：ヨルダンに来て一週間の間に、シリア難民のために1フロア準備された病院への訪問、「Syrian Women Association（以下SWA）」のRefugee center訪問・イベントへの参加、ヨルダンに滞在する日本人の友人を通してシリア難民の方の話を聞くことが出来ました。病院では、「Syrian relief and Development」という米国のNGO団体が支援をしており、国内のシリア人へも物資配布の支援等も行っています。4人の入院患者が治療を受けており、治療を受けた人たちの写真も見せて頂き、内紛の酷さがひしひしと伝わってきました。シリア自由軍の兵士たちはここで治療を受けても「またシリアに戻りたい」と言うそうです。「Refugee center」は、住宅街の一角にあり、2階建てのこじんまりした建物でした。1階は衣服を配布する部屋、SWAへの登録する部屋・倉庫等で、2階は、事務局、けが人・病人のための部屋という構造で、入口から階段にかけて人があふれていました。SWAは、2006年からヨルダンに居住するシリア女性に対しての活動を行ってきましたが、今はシリア難民に対しての支援活動を行っているとのことでした。特に印象に残っているのは、教育に対しての支援についてです。子どもに教育の機会を与えようとしても、親が「シリアにすぐ帰る」「食べ物や服がない」という理由で送りたがらないというお話を伺いました。夏休み中の彼らの教育支援は国語や算数ではなく、心のケアのための教育が中心で、イベントや公園に連れて行く活動です。歌・ダンス・ゲームやイフタール（ラマダン後の食事）を楽しむというイベントで、1週間の間に2回も参加させて頂きました。イベントの1つ目はヨルダンの大学生たちが主催したもので、大学生たちがDJ、歌、ダンスを子どもたちと一緒に楽しそうに行っていました。2つ目はSWAが開催したもので、アル＝ジャジーラが取材に来ており100人くらいの人々が参加し大規模なものでした。2つのイベントで共通に「シリアに帰ろう」というフレーズをアラビア語と英語で繰り返す歌で盛り上がる一方、アサド政権を批判した歌を熱唱する様子は印象的でした。子どもたちは祖国を離れ、大変な思いをしてヨルダンに来たのだと思いますが、そんな背景を感じさせないほど子どもたちは無邪気で楽しそうにイベントに参加しているように見えました。これはSWAの教育支援の成果なのかもしれないですが、外にいる時だけの姿という可能性もあり、子どもたちの心のケアはこれからも重要であると感じました。

(4) 寄付の状況

2012年4月にCIDSを通してSANABELへ150,000円を送った後、2012年8月9日時点で311,522円の支援金を頂くことができました。イベントでの物販や寄付にて多くの方々からの応援を頂き、この場を借りて心より感謝をお伝えいたします。これらの支援金は、(2)サダーカの動きでお伝えしたような支援に使いたいと考えています。まだまだ日々増える難民支援のために引き続き募金をお願いしております。

団体名：シリア支援団体サダーカ
銀行名：ゆうちょ銀行
店番号：018

口座名：シリアシエンダントサイダーカ
預金種類：普通預金
口座番号：8909473（ゆうちょ銀行からの送金の場合は89094731）

2. アハバールフロムニッポン 《日本での活動の報告》

日本国内では、アレppo石鹸やシリアの写真つきポストカードの販売などで支援金を呼びかける一方、様々なイベントに参加しシリアの日常を伝える活動を続けています。

(1) The Secret of Arabian Mode ～中東をファッションから親しむ～ (サダーカボランティア：葉狩真悠子)

7月15日、コレド日本橋にて日本GCC学生協会（J-GAS：<http://www.japangcc.com/>）主催のThe Secret of Arabian Modeが開催され、サダーカは写真展示およびシリア雑貨の販売という形で参加させていただきました。

アラブ衣装のファッションショーを中心とした今回のイベントには約500人の来場があり、サダーカブースにも沢山の方に足を運んでいただきました。雑貨はほぼ完売となり、シリア第二の都市で知られるアレppoで作られたアレppo石鹸などを含めて当日の寄付および物販売上げの合計は47,466円となりました。皆様の暖かいご支援とご協力に感謝いたします。

会場ではシリアや中東に行ったことのある方ももちろん、ファッションというキーワードで足を運ばれた方にも立ち寄りいただきました。そして日本在住のシリアの方からも逆に励ましを頂くなど、貴重な出会いにも恵まれた一日となりました。

このイベントの主催者である日本GCC学生協会は日本とGCC（中東湾岸諸国）の学生間での対話を通して相互の将来的な関係を発展させていくことを理念としている団体です。特に今回の中東女性の衣装を中心としたファッションショーはファッションというソフトパワーでイスラム社会に対する偏ったイメージをなくして行こうという想いが込められています。

私たちが活動対象としているシリアについても、最近の情勢から多くの方が「独裁国家」「危険な国」というイメージをまず思い浮かべることと思います。しかし平時のシリアは人懐っこい笑顔に溢れ、家族や地域の絆を大事にしつつ外から来た者も包容力たっぷりに受け入れる、そんな場所でもあります。サダーカの活動目的の一つである「日本におけるシリアや中東地域に対する多様なイメージの構築」のためにも、今後も様々なイベントで皆さんにシリアの色々な顔を伝えていきたいと思えます。

◇当日の様子は以下のHPでもご覧いただけます。動画もあります！
<http://arabianmode.com/>

(2) その他 他団体への協賛参加のご報告
・ASIAN PUJA 2012 in 高津宮：7月21日（土）
大阪の高津宮神社でアジアのお祭り「ASIAN PUJA」が行なわれ、サダーカが共催団体としてアレppo石鹸（限定100個）を置かせていただき大好評でした。売り上げの14,000円はサダーカを通してシリア人難民支援のために使わせて頂きます。

◇下記ページにも報告がありますので是非ご覧ください。
<http://npo-filc.org/info/>

・PEACE ON相沢恭行inヨルダン「巨大津波後の日本展」報告会
集めて頂いたカンパ5,363円はすべてサダーカを通してシリア人難民の方々の支援に使わせて頂きます。

◇PEACE ONの詳細はHPを是非ご覧ください！
<http://npopeaceon.org/>

・『DreamFesta 夏祭り 2012』@三重県
(主催：津市体育協会、共催：津市、主管：津市サッカー協会)
元Jリーガーの林一章(はやし かずあき)氏によるサッカー教室のイベントで、シリアのミニ写真展&ポストカード販売を行いました。氏の「子供達にサッカーだけでなく、サッカーを通じて世界に興味を持ってもらう機会を作りたい」との想いに共感し、サダーカも協力させて頂きました。サッカーの試合後に昨今のシリア情勢についてわかりやすく説明する機会も設けられました。

◇林一章氏のブログ / 転んだら起きろ、それでいい。
<http://ameblo.jp/moniquinha31/>

【編集後記】
先週末アンマンのシリア人難民の家を訪ねた。彼らの住むダラアの村がヘリコプターに襲撃され一昨日着の身着のままアンマンへ逃げてきた。支援団体の人が家族の状況について聞くとドアの前に立ちすくむ5歳くらいの女の子が涙を浮かべて何も言わなかった。その姿を見てただただ涙をこらえるのが精一杯だった。お父さんが爆撃で亡くなったという家には何もなかった。翌日日本の家族とSkypeで話した。シリアの人たちのためにと動き続けてきた1ヶ月、少し疲れてきた身体に何か新しい力を与えてくれた。多くの日本の皆さんの支援を得て、今シリアの為にできることを全力でやろうと思う。(M.T)

◆メールマガジンの新規登録/登録解除はこちらへ
お名前、配信先アドレスをお知らせください。

info@sadaqasyria.jp

発行：サダーカ事務局

〒221-0804

神奈川県横浜市神奈川区栗田谷11-1-101 平山方

シリア支援団体 サダーカ 事務局

Tel 080-4789-0019

HP <http://www.sadaqasyria.jp>

Email info@sadaqasyria.jp (メールマガジンへのコメント等はこちらへ是非どうぞ!)

Copyright 2012 Sadaqa. All Rights Reserved.

こちらに記載された記事を許可無く転載することを禁じます。